「放課後ちょいスクール (Choice, Cool)!」の実施

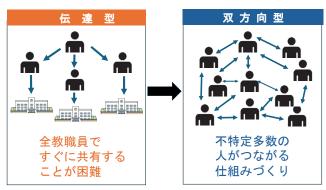
~教職員の主体性と同僚性を育み、研修観の転換を図る~

1. はじめに

コロナ禍の真っ只中であった令和3年度に、本実践が始まった。教育委員会(総合教育センター)において、新型コロナウイルス感染症の影響で、集合研修の中止や内容の変更を余儀なくされる中、教員研修の役割や在り方を大きく問い直す時期が来ていた。

研修の機会や時間の確保、より効果的な研修の在り方を探る中で、伝達型から不特定多数の教職員がつながる 双方向の仕組みづくり(図1)を目指した。現場の困り 感やニーズを即時に拾うべく企画された研修形態である。

令和3年度から令和5年度にかけての変遷や、本研修形態の効果について報告する。



【図1 伝達型+双方向型】

2. 企画した背景

新学習指導要領の実施や GIGA スクール構想の実現に向けた取組など、多種多様な変化に適切かつ柔軟に対応することができる資質・能力をどのように育んでいけばよいのか。教師主体の学習観から学習者主体に転換されて久しいが、教師自身もよい学び手として主体

性をもって研修に臨むための手だてはどうあるべきか。

これまでの研修では、「研修に参加したくても、登校日には子どもがいるので少人数しか参加できない。」「研修会場の規模や、使用できる端末数に限界があり、希望者全員を受け入れられない。」「研修を受けた者が学校内で還元するための時間やスキルが不足し、伝わりきらない。」「新型コロナウイルス感染症防止のため、参加人数や研修方法(協働作業)等に制約がある。」「研修計画(講師や内容等)が固まっており、柔軟に内容を変更したり追加したりできない。」等の課題が見られた。

これらの課題を踏まえ、新しい時代に柔軟に適応する教職員を育てるために、主体性と同僚性を高める新たな教員研修「放課後ちょいスクール(Choice, Cool!)」を企画した。ビデオ遠隔会議システム(Teams)とホームページ(以下: HP)、Microsoft Forms(以下: Forms)を組み合わせて運用している。従来の研修と比較すると、そのねらいがより明確となる(図 2)

項目	高松市での 主な研修	放課後 ちょいスクール
形態	集合	オンライン
時間	3時間程度	30分
実施時期	主に平日午後	放課後(月2回)
人数制限	あり	なし
端末利用制限	あり	なし
周知時期	前年度3月に 1年分の通知	開催1か月前に HPで通知
旅費	発生する	発生しない

【図2 従来の研修との比較】

3. ねらい

希望する教職員を対象に、ビデオ会議システムを通して、放課後の時間を活用した情報共有の機会を創り出した。 ねらいとしたことは以下に述べる。

(1) 現場の困り感、ニーズの吸い上げ

学校を支援するためには、現場での困り感や研修の ニーズを吸い上げることが何よりも重要である。毎回、 Q & A の時間を設定し、個々の困りごとを参加者で共 有し解決を図っている。そうすることで、教職員の生の 声を拾い、双方向性を重視した内容となる。

また、現場のニーズを柔軟に研修内容に反映することができるように、1か月前に内部 HP に公開するようにしている。教職員にとって必要感の高い研修となり、定着の促進につながると思われる。

(2) 教職員の研究と修養の機会の増加

初任者研修、中堅教諭等資質向上研修といった基本研修を受講後は、校外での研修の機会は極端に減る。全国教員研修プラットフォームが本格運用されると、教職員が自らのキャリア形成のために、研修内容を選び受講が促進されることが想定されている。しかし、放課後の30分を定期的に使った継続性のある研修形態は、教職員の研修と修養の機会の増加の一翼を担えると考える。

(3) 教職員の主体性の向上

「Choice, Cool!」(選ぶことは、かっこいい!)は課せられるのではなく、教員自らが「選ぶ」ことを大切にしている。コーディネーターを務める指導主事も温かい雰囲気づくりを心掛け、年齢や経験年数に関係なく、教職員の「自ら学びたい、関わりたい」という気持ちを引き出すことを大切にしている。また、参加者の要望を活かした企画も早期に実現させることで参画意識が高まるようにしている。

(4) 校種を超えた教職員の連携、同僚性の創出

電子黒板等につないで複数の同僚と一緒に学ぶ形態

をとることで、実施後の OJT の促進も期待できる。互いに学び合いながら同僚性の向上を図るとともに、参加者同士で意見の交流ができるようにすることで、学校間や校種間で顔見知りを増やし、学校内外で気軽に情報共有できる風土づくりをねらいとしている。

4. 実践の概要

放課後ちょいスクールは、今年で4年目となる。内部 HP から申し込みをした教職員を対象に、昨年度は以下の内容で実施した。

	内 容
4 / 26	特別支援教育について知ろう! 個別の指導計画の作成 〜児童生徒の見取り〜
4 / 26	つながれ現教主任 ちょいスクールで顔合わせ&情報交換
5 / 17	GIGA端末持帰り運用スタートのヒント!! 知っててよかった得得 すららドリルの効果的活用法
5 / I7	特別支援教育について知ろう! 個別の指導計画の作成 〜目標の設定〜
5 / 24	つながれ教務主任(教務主任さん以外の参加も大歓迎!) ちょいスクールで顔合わせ&情報交換
6 / 7	【第3弾!】部落って何?同和問題って難しいの? タブー視しないで語り合う同和問題(部落差別)③ 〜初心者も大歓迎!「自分事」としてみんなで考える場です。〜
6 / 7	水泳の授業ってどうしたら楽しくなるの? 水泳の授業で使えるネタ紹介&お困りごと相談会
6 / 28	特別支援教育について知ろう!③ 気になる子どもへの支援について
6 / 28	ノートが変わる!学びが変わる! グラフィックレコーディング ちょいとワークショップ
7 / 5	就学等教育相談担当者会 就学指導委員幹事さん限定説明&質問会
7 / 5	GIGAについて語ろう!! 日常使いや持帰りの実践について
7 / 19	就学等教育相談担当者会 就学指導委員幹事さん限定説明&質問会
9 / 6	こどもが語りたくなる道徳の時間 道徳でのICT活用
9 / 6	9/1から新システムに新規外部接続システムの利用について いて 以前とどのように変わったの? 教えて外部接続
9 / 13	特別支援教育について知ろう④ 特別支援学級でのICT活用

	内 容
10 / 4	附属高松中学校とのコラボ企画 総合、道徳の悩みを一度に解決!? 子どもがつくるプロジェクト×省察の実践紹介!!
10 / 18	Te-Comp@ssでちょこっと業務改善 機能の紹介と困りごとQ&A
10 / 18	特別支援学級事前調査について つまずきやすいポイントを解説!質問にも答えます!
/ 8	みんなで語ろう! 子ども理解につながる子どもの見取り、どうしてる? 子どもの見方を広げるポイント、授業での言葉かけが変わる 部活動の指導にも活かせる、所見で書きたいことがたくさん増 える
 	特別支援教育について知ろう! 自立活動の初めの一歩
 	子どもにどうかかわるか、みんなで考えよう 不登校、どうする?
12 / 6	みなさんどのように活用しているの??冬休み持ち帰りでの有効な活用方法は? すららドリル活用法 〜実践編〜
/ 20	図エ・美術鑑賞授業のキソ。アートに興味がある人 もどうぞ! アートのミカタ!
 17	子どもの考えを簡単に共有!! 「ふきだしくん」の紹介!
 3	Excel初心者のために・・・ FormsのデータをExcelで見やすく整理しよう!!
2 / 14	こんなものあればいいのにな・・・を解決できるかも!! GIGA端末で使える教材を作るDigitalチームから の教材紹介
2 / 28	特別支援教育について知ろう! 自立活動の初めの一歩 ~集団での自立活動編~
2 / 28	【第4弾!】部落って何?同和問題って難しいの? タブー視しないで語り合う同和問題(部落差別)④ 〜部落差別って今はどうなの?〜
3 / 6	みんなで一緒に考えよう!! 次年度に向け、運動会の作品(表現)づくり
3 / 6	不登校の子どもたちを支えるために ~心理的安全性を生み出す学年団チームとしての取組

図3 令和5年度の実践内容

基本的な進め方

(1) 内部HPの活用

高松市内の小・中学校のネットワーク内のみアクセ スすることができる内部 HP(図4)に随時、放課後ちょ いスクールの内容や、一部動画等を公開し、参加しや すい環境をつくった。



(2) 申込のデジタル化

これまでの研修申込は、参加者をとりまとめる必要 があったが、内部 HP から個々に Forms で申し込める ページ (図5) を作ることで、学校と主催者側の両者 の業務削減を図っている。

4・5月 放課後ちょいスクール予定					
	日時	オンライン開催 紹介動画あり 🕨	対象		
申込	4月24日(水) 16:00~16:30	特別支援教育について知ろう! 個別の指導計画の作成 〜児童生徒の見取り編〜 総合教育センター 指導主事 吉村 佳苗	全教職員(希望者)		
		各校の情報を共有しましょう! こんな取組をしようと思っています。令和6年度ICT活用計画 総合教育センター 指導主事 山下 哲央	全教職員 (希望者)		
申込	5月8日(水) 16:00~16:30	人権教育をすすめよう! こんな取組をしようと思っています。交流&情報交換 (希望者)			
申込	5月29日(水) 16:00~16:30	特別支援教育について知ろう! 個別の指導計画の作成 ~目標の設定~ 総合教育センター 指導主事 吉村 佳苗	全教職員 (希望者)		
		つながれ現教主任!! こんな取組をしようと思っています。交流&情報交換 総合教育センター 指導主事 - 鋼羽 美術	全教職員 (希望者)		

図 5 内部 HP 申込画面

(3) 開催曜日と時間の固定

月2回程度で、水曜日の16時から30分間で実施している。曜日と時間を固定化することで教職員が覚えやすくするとともに、教務主任や管理職が行事調整し、参加しやすい環境づくりができるようにしている。

6. これまでの成果

(1) 参加者側

「これまでのように、参加申込を管理職に報告しなく てよいので、気軽に参加しやすかった。」「オンラインな

ので、移動時間や旅費が発生せず負担が少ない。」という感想が多く見られた。また、電子黒板に映して、同僚と一緒に参加する学校も増えてきており同僚性の高まりが今後期待できる。



テレビ報道

さらに、研修のお知らせを校務支援システムの連絡 掲示板に上げたり、水曜日の放課後に会議等を入れず に参加しやすい環境づくりに努めたりする学校も徐々に 増え、認知度の高まりがうかがえた。実施年度ごとの 参加者数(図 6)は以下のとおりである。

実施年度	開催回数	参加人数
R3	34回	748人
R4	28回	839人
R5	30回	749人

図 6 開催回数と参加者数



図7 オンライン研修時の様子

(2) 研修運営側

指導主事等が課題意識に応じて企画し、コーディネーターを務めながら実施することで、現場のニーズを捉え、現場感覚を磨く機会となっている。また、教育委員会内の担当に縛られることなく企画できるので、自らの強みを発揮する機会となった。

さらに、輪番ではなく立候補制であるため、当事者 意識をもちながら企画・運営することにつながっている。 今では、総合教育センターの指導主事だけではなく、 教育長をはじめ人権教育課や保健体育課の指導主事も 参画するなど、主体性を発揮する場になりつつある。【図 7・8・9】

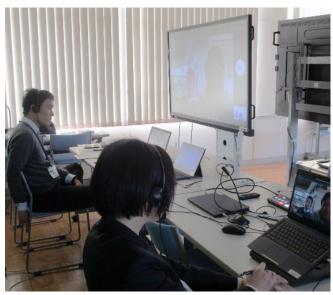


図8 オンライン研修時の様子



図9 オンライン研修時の様子

7. 今後に向けて

令和3年度の開始1カ月後の調査で、約51%の教員が「放課後ちょいスクールを知らない」と答えていた。認知度を上げ、教職員同士のネットワークづくりのために、定期的に行われる校長研修会や教頭研修会など、各研修会においても研修内容の周知と参加しやすい環境づくりをお願いしている。

ただ、中学校の教職員は部活動指導があるため、放課後の時間確保が実質難しい状態が続いている。学校によっては、部活動休業日やノー残業デーを設定していることから、現場に合わせた研修形態をさらに模索していきたい。

放課後ちょいスクールのねらいや特長が従来の研修 とは違うことを伝え、多様性と柔軟性に満ちた組織風土 を、放課後の学校から創出していけるように今後も取り 組んでいきたい。